



ボランティア・学生インターンを募集しています！

政策に共感して頂けるボランティア・学生インターンを募集しています。ご都合の良いお時間だけで結構です。メールやお電話で、お気軽にお問い合わせ下さい！

千代田のまちづくりを考える！(前編)



都市計画マスタープランと地区計画

世界都市ランキング、東京は？

先日「世界の都市総合力ランキング2020」が発表されました。これは国際的な都市間競争において、人や企業を惹きつける磁力は、その都市が有する総合的な力によって生み出されるという考えに基づき、世界の主要48都市を経済、研究・開発、文化・交流、居住、環境、交通・アクセスの6分野70の指標で複眼的に評価・順位付けされたものです。総合ランキングトップ4の都市は1位ロンドン、2位ニューヨーク、3位東京、4位パリとなっています。グローバル化の進展により国家の力は、その中心となる大都市の持つ力の優劣で決まる時代に突入しています。成長著しい東アジアの大都市との都市間競争が激化するなか、これからの東京には、如何に人々を惹きつけ、居住者にとって、また海外企業、旅行者にとっても魅力ある都市となれるかが求められています。

老朽化した都市インフラ

首都東京の都市の骨格を形成している大動脈である首都高速は、老朽化の進展や都市環境への影響、緊急輸送道路としての耐震対策など、多くの課題を抱えています。総延長約327kmのうち、経過年数40年以上の路線が約4割、30年以上が約6割となっています。首都高速同様、高度経済成長期に一斉に建設されたオフィスビルや橋梁など多くの社会資本ストックも、対応年数を超え更新の時期を迎えることとなります。

千代田区で想定される自然災害

千代田区では過去の文献から、地震、台風、そして水害が繰り返し発生したことを知ることが出来ます。1703年に発生した元禄地震は、千葉県野島崎沖(海溝型)を震源とし、犠牲者は6700人、江戸の震度は5~6と推定されています。また、1855年に発生した安政江戸地震は、南関東(直下型)地震のひとつであり、犠牲者は1万人、震度は6と推定されています。そして1923年に発生した関東大震災は、相模トラフ(海溝型)を震源とし、死者・行方不明者は東京府だけでも7万人、震度は6と推定されています。また、1742年の寛保の洪水をはじめとする「江戸三大洪水」や、明治以降では2度にわたる「関東大水害」でも甚大な被害を受けました。特に1910年(明治43年)の大水害では、梅雨前線と2つの台風が重なったことによる豪雨により河川が氾濫し、関東全域で死者・行方不明者847人、家屋全壊・流出約5000戸を数え、東京府だけでも約150万人が被災する大惨事となりました。この様に、千代田区は歴史的に見ても、直下型と海溝型の地震、そして台風や前線を伴った大水害に繰り返し襲われてきたことが分かります。



地区計画の見直しが必要では？

千代田区では、20年ぶりに「都市計画マスタープラン」の改定が検討されています。「都の都」として豊かな都心環境と高度な都市機能を有する千代田区は「代表制と多様性」を兼ね備えた唯一無二の都市であり続けています。「日々変貌する中で普遍的な価値を守る」これが千代田区のまちづくりのポイントとなります。

また、早くから都市化が進んだ千代田区では老朽化が進み、首都高速やオフィスビル、マンションなど機能更新が求められています。大規模地震・自然災害・気候変動リスクへの対応や脱炭素化の推進など、持続可能性は今後益々求められ

ていくと思われます。

都市計画マスタープランでは、再開発や共同化、個別建替えやリノベーションなど多様な手法を適切に組み合わせ、時代に即した市街地の再構築を進めるとしています。地域の個性・価値を高め、持続可能なまちづくりを進めるためには、地区のマスタープランである「地区計画」の見直しも必要となります。コロナと共生する社会を見据え、単に住宅の誘導から、新たな働き方、住まい方にマッチした機能を誘導する、また、神保町の古書店街などの商業文化の継承や、「歩いて楽しい」まちづくりが実現できる地区計画に転換することも必要です。また、広さや高さなど建築における「ゆとり」も求められ、こうした観点からの検討も重要です。

千代田区では、39地区、約507ha、皇居周辺を除くおよそ6割にきめ細かく「地区計画」が定められています。しかし、30年以上も前に決定したものもあり、社会や地域の環境とそぐわない計画も散見され「地区計画」の見直しを急がなくてはなりません。

(後編では、千代田におけるまちづくりの可能性について考えたいと思います)

Study 新区長と意見交換会を開催！

樋口新区長と千代田区議会自由民主党執行部にて、初めての意見交換会を行いました。今回の選挙は我が党にとっては残念な結果となりましたが、樋口区長が、これからどの様にリーダーシップを発揮し千代田区を変えていくのか、何よりも区民の皆さんのために誠実かつ真摯に区政運営を行って頂くことを、大いに期待したいと思います。

一方、私たち区議会は、二元代表制の一端を担う区民の代表機関です。区長に代表される執行機関と区議会とが対等な立場に立ち、チェック&バランスの作用により、区民利益の確保に努める事が重要です。更には新たな区長に対して、積極的に政策提言を行う事も重要だと考えています。



Study 予算特別委員長を務めました！

千代田区における令和3年度の予算議案を審査する重要な委員会の委員長を、務めさせて頂きました。予算特別委員会は議員全員で構成され、樋口区長や山口副区長をはじめ、全ての理事者が出席する大きな委員会であり、2週間にわたり集中審議が行われました。

予算は、区の事務事業の基本方針を金額で表示する行政計画です。従って、予算の内容と内訳をみれば、どのような施策に重点を置いているのかが分かります。予算案の審議と議決は、区議会にとって最も重要な政策形成のプロセスであり、予算特別委員会は大変重要な委員会と言えます。



世界の街歩き

Study



大連(中華人民共和国)

人口 390万人
面積 12,474km²

中国東北地方の遼東半島最南端に位置する大連は、上海、天津に並ぶ国際貿易港であり、東北アジア有数の国際金融・交通・物流の拠点となっています。郊外にある経済技術開発区には日本の有名企業が数多く進出しており、私が勤めていた会社

(現LIXIL)も大きな工場を有していました。歴史的にも経済的にも日本との関りが深い、中国では珍しい親日の街だと言われています。

「北海の真珠」と呼ばれる港町大連は、欧州のような美しい街並みが広がっています。三国干渉によりロシアが租借権を得た後、パリをモデルとした都市計画を作成しました。日露戦争後に租借権は日本に移りますが、ロシアの作成した都市計画を踏襲し、欧風建築物が立ち並ぶ美しいまち街並みが完成し現在に至っています。

また、私の様な「坂の上の雲」の大ファンにとっては、二百三高地や旅順は必見の聖地です。日本語による案内板も多く、楽しく観光できると思います。大連市内には、数多くの日本統治時代の建物が保存・活用されています。特に中山広場の周辺に建つ明治41年から昭和11年に建てられた建築物は、ゴシック建築やルネサンス建築が並んでいます。都市計画の継続性や歴史的建築物の活用については、千代田におけるまちづくりの参考にしたいと思いました。



「樋口区長の公約と区政運営」「令和3年度の予算編成」「新型コロナウイルス感染症対策」等について、代表質問を行いました。(次号に続く)



1. 石川区政の継承と区政運営の考え方

【問題の背景】石川前区長は、全国に先駆けてこども園の新設、罰則付きの路上喫煙禁止条例制定、区立中高一貫校の創設、猫の殺処分ゼロ、18歳までの医療費無償化などを実現しました。一方、経常的経費の削減に取り組むなど、将来にわたって行政サービスを維持・確保するための基金を積み上げられました。

区は二元代表制とはいえ、区長は、政策立案から実施に至るまでを行い、予算の編成権、職員等の人事権、土地利用の許認可、規制緩和など、強大な権限を有しています。一方で、現在の千代田区には、なかなか進捗しない施策や未だ対応策の見えない課題などが山積しています。

【質問】

強大な権限をもつ区長として、これまでの石川区政の成果や課題、財政運営の基本的な考え方、議会との連携等の具体的な取り組み姿勢について、見解を問う。

【区（執行機関）の答弁】

石川区政は行財政改革など、他の地方公共団体の先駆けとなる施策を次々と展開してきたことについて、高く評価している。こうした石川区政の後を受けて、現下のコロナ禍の閉塞感を払拭するためにも、攻めの姿勢で区政に臨む覚悟である。現在の最重要課題は、コロナに打ち克つことであり、なんとしてもコロナ禍の閉塞感を打破し、豊かさ住みよさ日本一の千代田区をつくることに全力で取り組んでいく。

その基礎を支えるのは、強固な財政基盤の確保であり、歳入確保や事務事業の見直し、再構築などを進め、今後も健全な財政運営を目指していく。

2. 公約である多選自粛について

【問題の背景】石川前区長は、2001年に初当選し5期20年務められました。前の木村区長は3期、加藤区長は2期であり、5期というのは千代田区政史上最長となりました。一般的に首長は3期12年をもって多選とされています。多選による弊害は、独善的な傾向が生まれ、周囲の助言を聞かず独走化したり、議会との関係に緊張感が欠如したり、職員任用の歪みや職員の士気の低下にも繋がると言われています。

ここ千代田区でも、石川区長4期目の平成22年度決算では、旧練成中学校の貸し付けに至る不透明な経緯、平成23年度決算では、湯河原千代田荘への過大な支出問題等により、不認定となっています。また5期目となる令和元年度決算では、スポーツ振興計

画の不正契約等により不認定となっています。また、「つきまとい行為」や「通勤手当の不正受給」、「セクハラ行為」や「ハラスメント行為」、そして、「契約書偽造及び公金処理不適正」など、多くの職員に減給や停職などの懲戒処分が行われました。

【質問】

改めて「多選の弊害」について区長のご認識は。また、多選を何期何年とお考えなのか、なぜ「多選禁止」ではなく努力義務である「多選自粛」とされたのでしょうか。

【区（執行機関）の答弁】

一般的に多選の首長は、施策の実行力が高まる点や安定的な政権の下、腰を据えて長期的な計画ができる強みがあると言われている。一方で、多選の問題点として、行政のマンネリ化など様々な弊害も指摘されている。多選制限の在り方については、期間など一概に申し上げることはできないが、一番大事なことは、当事者自らが、常に、多選には弊害が少なからずあることを、自戒することだと考えている。

3. 公約である区長報酬2割カットについて

【問題の背景】千代田区では区長の給料等について、条例で設置された報酬等審議会へ諮問し、そこで十分な議論がなされた答申を踏まえ、条例改正を行う仕組みとなっています。審議会で答申を出されても、特例条例が優先すると言う事であれば、報酬等審議会の制度設計そのものが形骸化してしまうのではないのでしょうか。

【質問】

報酬等審議会の答申を踏まえた条例改正と区長の特例条例との関係について、見解を問う。

【区（執行機関）の答弁】

報酬等審議会では、一般職の給与改定や他の公共団体の特別職の報酬等の状況、また社会経済状況等を踏まえ、適正な報酬等の額の適否をご審議頂いている。区はその答申を踏まえた改正条例議案を議会に提出しご議決を頂き、報酬額等を定めている。一方、区長給与の減額措置については、区長の自主的な政治判断に基づき、期間を定めて実施するものである。

4. 令和3年度予算の特徴について

【問題の背景】令和3年度予算案は、新型コロナウイルス感染拡大から「区民の命と健康を守ることを最優先に、新しい生活様式を見据えて区民生活をしっかりと支える予算」を基本的な考え方として編成されています。

人口増加が進む千代田区での安定的なサービスを提供・継続していくためには、既存事業の強化や新たな取り組み、職員体制の強化やICT技術の活用、民間活力の活用などが重要です。また、我が国は、台風、豪雨、洪水、土砂災害、地震、津波などの災害が発生しやすい国土となっています。ここ千代田区は、高度に集積した首都機能・都市機能を有しており、都心で生活・滞在する全ての人の安全を確保できる高度防災都市を実現

千代田コラム

渋沢栄一像（常盤橋公園）

常盤橋公園は大手町2丁目の日本橋川沿いにある小さな区立公園で、そこに建っているのが「渋沢栄一像」です。昭和8年に朝倉文夫により製作され、戦時中の金属提供のために一時撤去された後、昭和30年に再び再建されました。

NHKの大河ドラマ『青天を衝け』が放送されていますが、その主人公が渋沢栄一です。「日本資本主義の父」と称され、500を超える企業・経済団体の設立や経営に関わり、700を超える社会福祉事業・教育機関の支援に尽力したと言われています。大変千代田にも関りが深く、深谷市で生まれ、一橋慶喜に使えるために江戸にでると、裏神保（現：神田神保町1丁目）に住んでいたこともあり、お玉が池（現：神田岩本町1丁目）にあった千葉道場入門し、剣術修行を行っていたそうです。

渋沢栄一は、色々と調べれば千代田との所縁が沢山ありそうです。これもひとつの地域資源であり、まちづくりや地域振興等に活かせないかと考えています。まずは、大河ドラマで学んでみたいと思います。（現在整備中で4月より公開予定）



しなくてはなりません。

一方、保育園の待機児童問題、小学校の教室不足、特別養護老人ホーム不足は、すでに顕在化しています。住居形態や世帯構成の変化による価値観の多様化、地域コミュニティの衰退も大きな課題です。都心に位置する千代田区は、慢性的にスポーツの場や身近な公園に恵まれていません。加えて、気候変動対策やヒートアイランド対策など、行政ニーズは多種多様化しています。

【質問】

令和3年度の予算は「安全を確保し、安心を支える予算」とありますが、千代田区の現状と課題をどの様に認識し、予算を編成されたのか、また、「コロナ禍に打ち克つ」とはどのような状態なのでしょうか。

【区（執行機関）の答弁】

コロナに打ち克つことが最重要課題であり、この課題解決のために、区民の皆様の命と健康を守る対策を図るための予算をしっかりと計上することを念頭に置いて、令和3年度予算案を編成した。

コロナ禍にあって、区民サービスの量と質の両面から区民生活を支えることは、区民の皆様のさらなる安心につながると考え、そのために必要な予算を計上している。一日も早くコロナの感染拡大が収束し、区民の皆様に笑顔が戻ることを、私の考えるコロナに打ち克つことだと考えている。

5. 新型コロナ対策としてのワクチン接種体制と地域経済の活性化

【問題の背景】ようやく日本でもファイザー社のワクチンが特例承認され、医療従事者への先行接種が始まりました。しかし、世界中でワクチン争奪戦が繰り広げられ、日本に必要な量が確実に入手できるか懸念されている状況にもあります。

具体的には、接種会場の確保、予約システムの構築、接種クーポンの配付、医療従事者の確保などを短期間に確実に進めなければなりません。最初に接種される高齢者へは、接種クーポンを受け取り、予約をするまでのサポートも必要になるのではないのでしょうか。また、ワクチンの性質、効用と副反応、接種がいつできるかなど、ワクチンに関する質問や不安に迅速に対応できる仕組みの構築も必要だと思います。

街づくりへ、プロの視点。

内田直之（うちだ なおゆき）

1964年、熊本市生まれ B型。
国立有明高専建築学科を卒業後、トステム株式会社（現LIXIL）入社。総合企画室主任、海外赴任を経て商品企画室長となり、主力商品の経営戦略・商品戦略、多くの開発プロジェクトに携わる。働きながら明治大学公共政策大学院を修了。2011年より千代田区議会議員。一級建築士。

●学歴

国立有明高専建築学科 卒業
明治大学公共政策大学院 修了

●職歴

トステム株式会社（現LIXIL）25年間勤務

●所属団体

一般社団法人 千代田区サッカー協会 会長
千代田区ラグビーフットボール協会 副会長
千代田区軟式野球連盟 顧問
千代田区相撲連盟 顧問
千代田区ゲートボール協会 顧問
明治大学 校友会千代田区地域支部 副支部長
明治大学 都市施策・危機管理研究所 客員研究員
社会保険労務士会 千代田統括支部 顧問
公益財団法人 京葉鈴木記念財団 顧問
一般社団法人 東京建築士会

●内田直之事務所

〒101-0041 千代田区神田須田町1-30-1-103
Tel/Fax 03-3252-8832
Web www.uchidanaoyuki.com
e-mail uchida@tcn-catv.ne.jp

Action 活動フォトギャラリー



▲千代田SC練習



▼竹原慎二 元世界ミドル級王者



▲祖母の葬儀で帰省

▼ハロウィンのかっす達



▲石井浩郎参議院議員